

戦評

大会名 平成22年度青森県高等学校春季バレーボール選手権大会

日時 平成22年5月8日～9日

会場 八戸市東体育館

男子決勝（5月9日）

五所川原工業高等学校 2 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 19 \\ 25 - 22 \end{array} \right\}$ 0 弘前工業高等学校

ファーストレフリー 山道律人

セカンドレフリー 小林秀樹

5年連続37回目の優勝を目指す弘前工業高校（以下弘工）と5年ぶり5回目の優勝を目指す五所川原工業高校（以下五工）との戦い。五工のサーブから始まった第1セット目、五工はセンター千葉のブロックが立て続けに決まり6 - 2と弘工を引き離す。一方、弘工はセンター藤田のA・Bクイックで流れに乗り、五工のライト攻撃を小田桐がブロックしたところで8 - 9と逆転に成功。その後も五工はキャプテン川浪と桑村のツーセッターからの多彩なコンビ攻撃で、弘工はセンター館山と藤田の速攻を中心とした攻撃で19 - 17とシーソーゲームが展開される。しかし五工は桑村がライトからスパイクを3連続で決め22 - 17としたところで一気に流れは五工に傾き、最後は2段トスをレフトから須藤が力強く打ち込んで25 - 19で第1セット目は五工が先取する。第2セット目は桑村の高速ジャンプサーブや成田のブロックなどで五工は得点を重ね11 - 6と流れをつかんだかに見えた。しかし、弘工もセンター藤田のA・Bクイックが決まり、五工のスパイクミスなどもあり15 - 14と追い上げる。ここから五工はレフト須藤のスパイクで連続得点を重ね21 - 14と一気に突き放す。その後弘工は館山のブロックで22 - 20と追い上げるも、五工はライト桑村のスパイクや3枚ブロックが有効的に決まり、最後は桑村のフレイントが決まり25 - 22で五所川原工業高校が5年ぶり5回目の優勝を決めた。

戦評者 猪股豪

戦評

大会名 平成22年度青森県高等学校春季バレーボール選手権大会（岡本杯）

日時 平成22年5月8日～9日

会場 八戸市東体育館

女子決勝（5月9日）

弘前学院聖愛高等学校 2 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 19 \\ 25 - 12 \end{array} \right\}$ 0 弘前実業高等学校

ファーストレフリー 岡村尚文

セカンドレフリー 晴山雅紀

6年連続8回目の優勝を目指す弘前学院聖愛高等学校（以下聖愛）と11年ぶり2回目の優勝を目指す弘前実業高等学校（以下弘実）の対戦。第1セット序盤は、弘実の工藤（優）の連続してサーブが決まり弘実リードで試合が始まるが、お互いミスがあり流れをつかめない。聖愛のキャプテン唐牛、川村のスパイクが徐々に決まりはじめ、聖愛がリードしていくが、弘実も三上（可）の攻撃やサーブ、フェイントで加点し中盤までシーソーゲームが展開される。中盤以降はお互いのスパイクが着実に決まり、どちらも譲らず一進一退でゲームが進む。その後聖愛のブロックが連続で決まり、20対16で弘実2回目のタイムアウト。終盤は、聖愛のブロックがそのまま機能し、唐牛のスパイクも決まりリードを広げていく。弘実も館山のスパイクで追うが、聖愛齋藤のスパイクが決まり25対19で第1セットを聖愛がとる。第2セット序盤は、弘実の軟打とサーブが決まり、4点先取で聖愛がタイムアウト。その後、聖愛も時間差とサーブですぐに逆転する。弘実も田澤、三上（可）のスパイクで追いついていくが、要所で聖愛唐牛のスパイクが決まり、13対9で弘実が2回目のタイムアウトをとる。聖愛大山の速攻とブロック、さらに弘実のタッチネットもあり、聖愛がリードを広げていく。終盤は聖愛齋藤のスパイク、川村、花田のブロックが連続で決まり突き放していき、最後は弘実のスパイクがアウトになり25対12で聖愛が6年連続8回目の優勝を決めた。

戦評者 村元直記